



日仏自治体間交流の次の新たな 10 年に向けて ～第 6 回日仏自治体交流会議を熊本市で開催～

(一財)自治体国際化協会交流支援部交流親善課 主査 土山 朋子

過去最多の日仏自治体が参加

2018年10月、熊本市で第6回日仏自治体交流会議を開催しました。2年ごとに日仏交互に開催されるこの会議は、本年記念すべき10周年を迎え、過去最多となる日本側35、フランス側17の自治体等が一堂に会しました。参加者は、両国自治体に共通する課題について白熱した議論を繰り広げるとともに、会議期間を通して、広く自治体間における交流を深めました。

また、開催市となった熊本市は、2年前に熊本地震で被災されており、今回の会議開催は、フランスをはじめ国内外に力強く復興へと歩みを進める熊本市の姿を発信するものとなりました。

フランス色に彩られた熊本市

会議期間中は、熊本市中心部の至るところに（市内を走る市電にも！）会議のバナーやフランス国旗が施され、市を挙げて会議開催を歓迎するおもてなしムード満載の様子は、フランス側参加者を大いに喜ばせていました。

また、会議に併せて「くまもとフレンチウィーク」と銘打ったイベントが市内各所で開催されました。特に、



会場近くの広場に開かれたマルシェ

会場近くの広場に開かれたマルシェでは、会議に参加するフランスの自治体を紹介し、食品や雑貨を販売しましたが、初日から売り切れる商品が続出する盛況ぶりであり、熊本の皆さんのフランス自治体への関心の高さがうかがえました。日仏友好160周年にあたる本年は、パリを中心に日本の魅力を発信する「ジャポニスム2018」が開催されるなど日仏友好の機運が高まっておりますが、ここ熊本でも、この熊本会議開催が機運醸成の契機となったように感じられました。

本物を体験し、日本の魅力を伝える

会議開催に先立ち、10月8日から9日にかけてフランス側参加者を対象とした視察プログラムが開催されました。復旧が進む熊本城の視察に始まり、伝統工芸の草紙の製作、酒蔵「瑞鷹東肥蔵」での清酒の飲み比べ、水前寺成趣園での能楽鑑賞、熊本藩主細川家



水前寺成趣園にて能楽のワークショップ

の菩提寺・泰勝寺での抹茶お点前体験など、日本そして熊本市の魅力をフランスの方々存分に体験していただきました。

いずれの体験でも、参加者は本物の日本文化に興味津々で、終始熱心に楽しんでいたのが印象的でした。

第6回日仏自治体交流会議 開幕！

10月10日、ついに第6回日仏自治体交流会議が始まりました。今回の熊本会議では、「成熟社会における都市の魅力と価値の向上」をメインテーマとし、持続可



開会式で挨拶をする大西熊本市長

能なまちづくりのビジョンと手法について、日仏自治体の知見が共有され、議論が行われました。

全体会では、京都大学こころの未来研究センターの広井教授の基調講演の後、全体テーマの説明と、分科会の開催に先駆けた各分科会の代表からの発表が行われ、その後、全体会の登壇者と会場の参加者との意見交換が行われました。この全体会での意見交換は初めての試みでしたが、午後から始まる分科会に向け、参加者全員でテーマを共有できる良い機会となりました。

午後からは、第1分科会「誰もが移動しやすい公共交通」、第2分科会「青少年のグローバルな人材育成」、第3分科会「自治体間の連携」の3つの分科会に分かれ、日仏の各自治体より特色ある取り組みの発表と、それに対する質疑や意見交換が行われました。日仏それぞれの自治体で同様の問題を抱えていても、その解決へのアプローチは全く異なっていることもあり、参加者は互いの取り組みに興味を持って質疑をするなど、予定していた



第1分科会での自治体発表

時間があつという間に過ぎるほど、白熱した意見交換が繰り広げられました。

分科会での議論の内容は、翌11日の全体会にて日仏の各座長より報告され、全ての自治体で共有されました。その後、今回の会議における議論を踏まえた最終宣言「熊本宣言」が採択され、会議は盛況のうちに幕を閉じました。

日仏交流のさらなる深化を目指して

日仏自治体交流会議がもたらすものは、実に多岐にわたります。参加者が知見を広げ、議論し、最終宣言を導き出す場にとどまりません。開催市では、市民を巻き込んだ日仏友好の機運の醸成につなげることができますし、フランス側参加者に日本の文化に直に触れていただくことで、日本や開催市のファンを増やすことができます。また、会議期間中には食事会等で、姉妹都市はもちろん、多くのフランス側自治体と交流を深められますし、これからフランスとの交流を検討している自治体は、直接会って交流を深めたい自治体を探することができます。さらに、日仏交流について、日本の先進自治体と情報共有ができます。このように日仏自治体交流会議は、日仏の自治体間交流における多くの可能性を秘めています。だからこそ、初開催から10年が経った今、参加自治体数は過去最多を更新し、多くの自治体から愛される会議になっているのです。

日仏自治体間交流のさらなる深化と日仏自治体交流会議の次の新たな10年に向けて、クレアは今後も全力でサポートを続けていきます。

次回は、2020年に南仏・エクサンプロヴァンス市にて第7回会議が開催されます。多くの自治体の皆様の御参加を心よりお待ちしております。



会議終了後の記者会見での集合写真